

**記入例 2**

様式第 3 号 (第 15 条関係)

西暦〇〇〇〇年 10 月 25 日

認定社会福祉士認証・認定機構  
機構長様

認証年度：2014 年度  
 認証番号：20140100  
 科目の区分：共通専門  
 科目の群：ソーシャルワーク理論系科目群 I  
 科目名：ソーシャルワーク理論系科目 I  
 単位数：2 単位  
 認証更新申請する研修の名称：ソーシャルワーク論

団体名：学校法人〇〇〇〇 〇〇大学大学院  
 団体事務所の所在地：〒000-0000  
〇〇県〇〇市〇〇 9 目 8 番 7 号  
 電話：XXX-XXX-XXXX (代表)  
 FAX：XXX-XXX-XXXX  
 E-mail：0000@xx.ac.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証の更新を申請します。

団体代表者：学長 教育 一郎  
 申請責任者：社会福祉研究科長 管理 風子



記

- 自己評価報告書
- 添付書類一覧
  - 1 大学院「ソーシャルワーク論」シラバス
  - 2 研修シラバスと認証用のシラバスの対比表
  - 3 研修認証申請（更新）のための申請書類チェックリスト

&lt;機構使用欄&gt;

受付	
確認	
研修審査員付託	
追加連絡	
審査報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定社会福祉士制度研修認証更新

※申請受付番号 \_\_\_\_\_

(※は記入しないでください)

### 認定社会福祉士制度研修認証更新申請書

申請年月日	西暦〇〇〇〇年10月25日
申請団体名	学校法人〇〇〇〇 〇〇大学大学院
申請団体代表者氏名	教育 一郎
申請責任者職名	社会福祉研究科長
申請責任者氏名	管理 風子
団体住所	〒000—0000 〇〇県〇〇市〇〇9丁目8番7号
同 Tel・Fax	Tel : ( XXX )-( XXX )-( XXXX )代表
メールアドレス	Fax : ( XXX )-( XXX )-( XXXY ) E-mail <u>0000@xx.ac.jp</u>
申請対象の 科目の区分	■認定社会福祉士 / ■共通専門 □分野専門 ( ) □認定上級社会福祉士
科目の群	科目群名 : ソーシャルワーク理論系科目群 I
科目名 (単位数)	科目名 : ソーシャルワーク理論系科目 I (2単位)
申請する研修名	ソーシャルワーク論
研修認証実績	年度 認証番号 ( ) 年度 認証番号 ( ) 年度 認証番号 ( )
その他特記事項	

認証更新申請科目に対する研修の内容

申請対象の 科目の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 認定社会福祉士 / <input checked="" type="checkbox"/> 共通専門 <input type="checkbox"/> 分野専門 ( ) <input type="checkbox"/> 認定上級社会福祉士	
科目群名	ソーシャルワーク理論系科目群 I	
科目名	ソーシャルワーク理論系科目	
(1)提供する研修について		
研修名	ソーシャルワーク論	
研修目標	ソーシャルワークの実践理論・モデルと実務を結びつけ、理論・モデルに基づく対象把握、実践を行うことができる。	
到達目標	3つの対象レベル(個人・地域・組織)において、ソーシャルワークの実践理論に基づき、対象の統合的な理解・把握、アセスメントができる。また、自身の実践の振り返り、改善を行う。	
研修内容(研修プログラム)	含むべき内容	研修プログラム
	①対象レベル(個人・地域・組織)におけるソーシャルワーク実践理論・実践モデルの活用の実際についての講義 ②演習(チームアプローチを含む)	1回:ソーシャルワーク実践理論・実践モデルについての概論(講義)(①該当) 2回:システム理論(講義)(①該当) 3回:行動理論(講義)(①該当) 4回:心理・社会モデル(講義)(①該当)ロールプレイ(演習)(②該当) 5回:生態学モデル(講義)(①該当) 6回:ライフモデル(講義)(①該当) 7回:課題中心モデル、問題解決モデル(講義)(①該当) 8回:ジェネラリストモデル(講義)(①該当) 9回:理論モデルと実践についての考察Ⅰ(演習)ケースメソッドによる事例検討を行う。(②該当) 10回:理論モデルと実践についての考察Ⅰ(演習)ケースメソッドによる事例検討を行う。(②該当) 11回:チームアプローチⅠ(講義)組織内における他職種連携・協働(①該当) 12回:チームアプローチⅠ(講義)地域における他機関・他職種などとの連携、協働(①該当) 13回:チームアプローチⅡ(演習)ロールプレイ(②該当) 14回:理論モデルと実践についての考察Ⅱ ①:自身の実践について理論・モデルと結びつけて検討する。グループに分かれて検討を行う。(②該当) 15回:理論モデルと実践についての考察Ⅱ ②:自身の実践について理論・モデルと結びつけて検討する。自身の実践について理論・モデルと結びつけて検討する。グループに分かれて検討を行う。(②該当)
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>例では、テーマだけを記載している回がありますが、15回のように内容がわかるよう各回について3～5行程度で内容を説明してください。申請書のページが多くなっても構いません。</p> </div>		

<p>研修方法</p>	<p>■通学課程（集合研修） □通信課程（通信研修）</p> <hr/> <p>面接授業（講義、演習） ※認定上級社会福祉士科目の場合は、使用教材について、必ず明記してください。</p>
<p>研修時間</p>	<p>面接授業 スクールアワー適用 22.5 時間(90 分×15 コマ)</p>
<p>修了要件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接授業の出席は全出席とする。ただし、やむを得ず講義に出席できない場合はレポートで代替できるが、代替を認めるのは研修全体のうち 3 回までとする。演習の欠席は認めない。</li> <li>・やむを得ない遅刻は授業開始から 30 分までとする。30 分を過ぎた場合は欠席とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。30 分を超える早退も同様に欠席とする。同一コマで遅刻と早退がある場合は合計時間が 30 分を超える場合は欠席とする。</li> <li>・最終レポートを提出し合格すること。不合格の場合の特別の対応はない。</li> </ul>
<p>講師要件（講師の選定基準）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の専任または非常勤教員</li> </ul>
<p>(2)受講者について</p>	
<p>受講対象 (受講要件)</p>	<p>次のいずれについても満たす者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①本学大学院の規程により受講を認める者</li> <li>②社会福祉士取得後、相談援助実務経験 5 年を有する者。ただし、最終学歴が大学卒以上の者は社会福祉士取得後の相談援助実務経験は 3 年以上とする。</li> </ol>
<p>修了評価（習得度、研修成果）</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>この項目は、ホームページ上で公開されません。具体的に記入してください。</p> </div>	<p>修得度は、下記の①ミニ試験及び②レポートにより判断し、それぞれ 70 点を基準点として判断し 70 点以上を可とする。70 点に達しない場合は不可とする。これが可であった者について③最終レポートにより判断する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ソーシャルワークの実践理論について、適宜ミニ試験を行い、各理論・アプローチについての知識について審査する。</li> <li>②自身の実践について、特定の理論・アプローチを用いてレポートする。レポートにおいて、自身の実践を適切に記述できるか、理論・アプローチについて理解し、自身の実践に結びつけて適切に論述できるかについての観点から評価する。レポートは、A4のレポート用紙で 2 枚(3,600 字)以内とする。</li> <li>③最終レポートにおいて、授業で行った自身の実践レポートに対するグループの意見を踏まえ、実践の改善案を策定し実践の改善に結びつけられるか確認し、評価する。レポートは、A4のレポート用紙で 1 枚(1,800 字)以内とする。</li> </ol>
<p>(3)研修の環境条件</p>	
<p>定員（講師の配置基準）</p>	<p>大学院生 50 名。ただし、大学院生の他、科目等履修生については5名までとする。 演習(グループワーク)時については、20 名を越えるごとにティーチングアシスタントを配置する。ティーチングアシスタントは、本学ガイドラインに定める〇〇とする。</p>
<p>開催場所（都道府県）</p>	<p>△△(〇〇県〇〇市)</p>

(別紙3) 認定社会福祉士制度研修認証更新

認証更新申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1)研修の実施予定	
実施日	授業期間は、西暦〇〇〇〇年4月1日～西暦□□□□年3月31日の半年間。
	授業期間は、西暦□□□□年4月1日～西暦△△△△年3月31日の半年間。
	授業期間は、西暦△△△△年4月1日～西暦◇◇◇◇年3月31日の半年間。
開催場所(会場)	〇〇大学(〇〇県〇〇市)
	〇〇大学(〇〇県〇〇市)
	〇〇大学(〇〇県〇〇市)
(2)講師 (※)	
担当、氏名及び略歴	〇〇〇〇 社会福祉専攻科教授 職歴 XXXX年～XXXX年 △△大学 XXXX年～XXXX年 〇〇〇〇大学社会福祉学部 XXXX年から現職 著書 「YYYYYYYYYYYYYYYYY」◇◇書房、XXXX年 「ZZZZZZZZZZZZZZZZZZ」□□出版、XXXX年 その他 〇〇学会、△△学会会員 社会福祉法人〇〇会理事
(3)実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	企画:社会福祉研究科(構成員:22人) 運営:社会福祉研究科(構成員:22人) 大学院事務室(担当事務局員3名)
研修の企画運営に関する諸 規程	〇〇〇〇大学大学院学則 〇〇〇〇大学院授業科目履修規程
研修管理責任者職名	社会福祉研究科長
研修管理責任者氏名	管理 風子
機構問合先部署	〇〇〇〇大学大学院事務室
機構問合先担当者氏名	▽▽ ▽▽
機構問合先電話番号/FAX	XXX-XXX-XXXX / XXX-XXX-XXXX
機構問合先 e-mail アドレス	zz @ xx.ac.jp
受講問合先部署	〇〇〇〇大学大学院事務室
受講問合先担当者氏名	▽▽ ▽▽
受講問合先電話番号/FAX	XXX-XXX-XXXX / XXX-XXX-XXXX
受講問合先 e-mail アドレス	yy @ xx.ac.jp
(4)研修履歴の管理体制	

受講者への付与単位部門	〇〇〇〇大学大学院社会福祉研究科
受講履歴の管理方法	個人情報については、個人情報保護法による。 授業の出席、課題の提出状況は、エクセルによる管理。 履修終了後の修了履歴については、履修管理システムによるデータ管理。システムでの履歴保存期間は永年とする。
受講履歴の証明	履修終了時に修了証を発行。修了証を紛失した場合は、所定の手続きを取ることで修了証明書を発行する。
管理責任者氏名	□□ □□
管理担当者氏名	◇◇ ◇◇

※認定上級社会福祉士科目は、講師は審査項目になります。（認定申請科目の場合でも、科目によっては要件を定める場合があります）